

名古屋大学

〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町
教育推進部入試課
TEL 052-780-5765
http://www.nagoya-u.ac.jp/

「自由闊達な学風」を学術憲章に掲げる名古屋大学は、世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる「指定国立大学」にも指定された、わが国屈指の基幹総合大学です。21世紀にノーベル賞を受賞した日本人のうち、名古屋大学関係者が6人の上るなど世界トップレベルの研究を創出してきました。

今年4月には岐阜大学と共に、わが国初の1法人複数大学である「国立大学法人東海国立大学機構」がスタート。高度な研究、教育はもちろん、国際的な競争力向上と地域創生を目指します。また、ICT技術を活用した新たなデジタルユニバーシティの実現を目指し、国内外で活躍する次世代を担うリーダーを送り出します。



杉山直副総長
(統括・研究担当)

世界屈指の研究大学の実現へ向けて 最先端の研究と国際化を推進 国内外で活躍する次世代のリーダーを養成

東海国立大学機構がスタート 世界最高水準の 知と地域創生の拠点へ

今年4月1日、名古屋大学と岐阜大学の法人組織を統合した「国立大学法人東海国立大学機構」がスタートしました。わが国初の1法人複数大学であり、これからの新しい大学のモデルとして期待されています。名古屋大学の杉山直副総長は「キヤッチフレーズは『岐阜大学×名古屋大学』(無限大)で、世界最高水準の研究の展開による知の拠点化、国際通用性のある質の高い教育の実践、社会・産業の課題解決を通じた地域創生への貢献を行い、東海地域をはじめ国内外で活躍する次世代を担うリーダーを送り出すことを目的としています」と語ります。

教育面では、「勇気をもってともに未来をつくる」を共通理念に掲げ、両大学の教育関係組織を連携させた「アカデミックセントラル」を設置しました。研究面では農学教育研究拠点、航空宇宙研究教育拠点、医療健康データ統合研究教育拠点、糖鎖生命コア研究拠点の4つの拠点を設け、研究だけではなく教育も含めた連携を行う構想です。

世界レベルの研究を推進 コロナ対策も積極展開

多くのノーベル賞受賞者を輩出したことで知られる名古屋大学は、「指定国立大学」の指定や国立大学法人東海国立大学機構の設立により、世界屈指の研究大学を目指した動きをさらに加速させています。

化学賞受賞の野依良治博士や、下村脩博士の研究に連なるのが、「トランスフォーメティブ生命分子研究所(ITBM)」です。ここは文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム(WP)」の採択を受けて発足した研究所で、化学と生物学のミックスにより革新的な機能分子を生み出す夢に挑戦しています。「素粒子宇宙起源研究所(KMI)」は、物理学賞を受賞した小林誠博士と益川敏英博士らの系譜を受け継ぐもので、「未来エレクトロニクス集積研究センター(CIRFE)」では、「エネルギー変換エレクトロニクス実験施設」「エネルギー変換エレクトロニクス研究館」にて、物理学賞受賞の天野浩教授らが、産学官共創によって窒化ガリウム研究を通じて省エネルギーイノベーション創

「全学教育体制」で 充実のオンライン講義

名古屋大学では各学部がその目的に沿った個性的な教育を展開するため、入学から卒業までの「1年一貫教育」(医学部医学科は6年)を実施しています。その基礎教育・教養教育の特徴は「全学教育体制」で、全学部のすべての教員が携わるため

し、活発な議論が行われました。

海外大学と積極的に提携 アジアとの交流に力を注ぐ

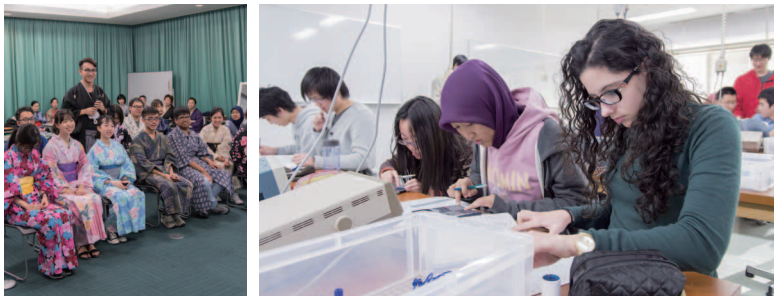
名古屋大学では世界各地からの留学生が学ぶとともに、各国の大学・研究機関と学術交流協定を締結しています。中でも特筆されるのが、海外の連携大学との共同プログラムを修了すれば、両大学連名による共同学位が取得可能な「ジョイント・ディグリー・プログラム」(4)です。医学系研究科においてわが国初めてのジョイント・ディグリー・プログラム「名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻」を2015年に提携、その後も3研究科で合計6つのジョイント・ディグリー・プログラムを開設するなど、わが国のジョイント・ディグリー・プログラムのフロントランナーとなつてい

優れた指導者輩出の伝統 「夢が実現できる大学」

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、ノーベル賞受賞者を含めた世界

トップレベルの研究者や、社会連携で素晴らしい成果を出している研究者が実際に教育を行っているのが特徴です。また、指導者やメンターとして優秀な人材も多数輩出してきています。こうした学風や伝統を背景に、杉山副総長は、次のように受験生に呼びかけています。「名古屋大学に来て、自分がやりたいことに思う存分挑戦してもらいたい。本学は教員を含めて、そうした学生を受け止めることができる体制が整っています。例えば留学をしたという学生に対しては、最大限の留学支援をしており、エディンバラ大学と本学で両方の学位を取る学生も出てきています。また、卒業までに学部生全員が留学することを目標に掲げており、名古屋大学留学積立金や名古屋大学基金など独自の支援制度も用意しています。自分の夢をぜひ名古屋大学で実現させてください。そのための最大の助けをします」

世界中から学生が集う名古屋大学



の組織が教養教育院です。新型コロナウイルスによる影響を受けた今春は、新学期に入ってから早い時期に授業は基本的にオンラインで行うことを決定し、万全な準備を進めてきました。「ピンチをチャンス」と捉えています。今後はオンライン授業を含めたITツールを使った授業の活用を進めるとともに、座学やグループワークなどを組み込んだバーストミックスの学びができるようになります。ICTの技術を大胆に使った新たなデジタルユニバーシティを目指すと「いえましよう」と杉山副総長。また、6月には高等研究院と未来社会創造機構による「未来を見据えるコロナ禍の研究者たち」と題するウェビナーを開催。4人の若手研究者が、工学や医学、人文系などそれぞれの専門分野からコロナ禍を経験した人類の未来像について発表

(1) アカデミックセントラル

さまざまな社会課題に対し新たな価値を創造して対応できる人材を世界や地域に送りだしていくことを目標とし、学生が身につけるべき新たな価値を創造できる力を「考え抜く力」「進める力」「伝える力」と位置づけ、これらの力を育成する取り組みを進める。例えば、岐阜大学と名古屋大学の大学院生と、社会人の受講者が参加して、企業から提供されたデータをもとに実社会の課題について分析し、課題解決を図る「数理・データ科学教育」や、岐阜大学と名古屋大学をオンラインで結んだ「遠隔講義システムを活用した英語学習」などを実施する。

(2) 高等研究院

世界最高水準の研究活動を推進し、卓越した研究成果を挙げ、それを社会に還元するため全国の大学に先駆けて2002年に創設した、部局を超えた研究専念組織。すぐれた研究を学外にも積極的に公開することを目的に、各種の学術セミナー、レクチャーを実施している。また、新入生を対象に学問の面白さや研究に対する心構えを教える高等研究院初年次講義「学問の面白さを知る」を開講している。さらに、名古屋大学若手育成プログラム(YLC)では若手教員を年間8名採用し、人材育成につとめている。

(3) 未来社会創造機構

10年後にどのような社会を実現すべきかを考え、そのために求められる技術と人材を創出するための拠点として2013年に設立。社会と国民がその活力を持続発展させるための将来ビジョンを策定し、さらに新しい形の産官学連携により革新的な技術開発と、その社会実装を通じて、あるべき未来社会の実現を目指すことを目標としている。産学連携プロジェクトを強力に推進するため学内諸組織の協力の下、緊密な共同研究を行っている。

(4) ジョイント・ディグリー・プログラム

大学院博士後期課程において、修学期間を延長することなく、名古屋大学と海外提携校の共同学位が取得できるプログラム。学位論文は名古屋大学と連携先大学の共同審査を受けるため、国際的に質を保証される。高度な専門性と学識、異なる文化を理解できる国際性を備えた、社会に貢献できる人材を育てる。最終的には約20の海外トップ大学との連携・国際共同教育研究により、国際的な研究ネットワークの構築を目指す。

北海道・東北
関東
東京・神奈川
中部
近畿
中国・四国
九州



国立大学法人東海国立大学機構 看板上掲式